

過去の災害から得た教訓を活かし、 「いざ」という時に備える

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、多くの尊い人命と貴重な財産が一瞬にして奪われるとともに、当社の電力設備も大きな被害を受けました。

阪神・淡路大震災以降も、2011年3月11日に発生した東日本大震災をはじめ、全国各地で大規模災害が発生しており、さらに今後も、近畿圏では南海トラフ地震の発生等が懸念されています。

阪神・淡路大震災の際、倒壊した家屋から脱出できた方の多くは、自らの力あるいは家族や近所の住民の手、いわゆる

“自助・共助”によってそれを成し得たとされています。また、東日本大震災のような大規模広域災害時には、行政機関等も被災する恐れがあり、“公助”にも限界があります。これらのことから分かるように、災害時に自分を含めた家族の命を守るためには、常日頃から、「いざ」という時に、個人・家族・地域単位で何ができるか、何をしなければならないかを考えて、備えておくことが必要です。

この「防災ハンドブック」は、災害に関する知識や備えておくべきことを具体的に紹介しています。「いざ」という時のため、このハンドブックを活用していただければ幸いです。



関西電力株式会社
関西電力送配電株式会社